



2021春闘

誰もが希望を持てる社会を実現！
安心・安全に働ける環境整備と
「底上げ」「底支え」「格差是正」で



釜石・遠野地域討論集会

二月十七日、釜石情報交流センター（P1）において、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、参加者を限定し、二〇二一年春闘釜石・遠野地域討論集会を開催した。集会には四三名が参加し、二〇二一年春季生活闘争の共同体制強化、課題の把握、労働環境の改善を確認し合うとともに、同日に実施した「議会活動報告会」では、釜石市議会議員の菊池秀明氏、三浦一泰氏から災害復興の進捗状況や直面する課題の話を聞いて地域の行政動向を把握した。



地域討論集会の挨拶で、鈴木圭連合岩手会長代行は、九月に発覚した不正経理事案を捉え、

「信頼を大きく失墜させ、多大な心配と迷惑をおかけすることになった」と挨拶があり、今春闘はコロナ感染症の影響もあって厳しい状況。来年につなげる春闘にしていきたい。経営者協会に連合の思いを伝えてきた。銀行の現場窓口は厳しい対応をしている。岩手労働局への対応、県議会にも政府などへの請願を求める。これから山場を迎える地場・中小の闘いでは、賃金が難しい場合には労働条件、環境改善など、会社への交渉を訴えた。

星事務局長代行からは、経済活動の停滞、九万人におよぶ解雇や雇い止めによる雇用悪化など、春闘課題、意義と目的について説明があった。

2021春闘情報交換会

二月二日と二六日の幹事会開催時に二〇二一年春闘情報交換会を実施。闘争状況や労働環境課題などを確認し共に闘いぬく決意を固めた。

各単組からの主な報告▽二年に一回の要求、▽勤務管理はPC、▽安全衛生委員会は回付開催、組合員の声を取り扱っている、▽勤務はフレックスで自己申告、▽小さい職場で管理者と合わずメンタル者がいる、▽子供の学校休業に年休ではなく自宅待機、▽二年サイクルの賃金要求で今年度は一時金要求、▽コロナで厳しく一時金がでない、▽今年度は一時金要求、▽年休五割減、▽年休五割減



2021春闘 ヤマ場の回答状況

3月18日、回答引き出しの状況について神津中央闘争委員長は、「社会の持続性」を実現するため、分配構造の転換につながる賃上げと、誰もが安心・安全に働くことができる環境の実現を求め、交渉を展開している。第1先行組合回答引き出しのヤマ場（3月16～18日）において多くの組合が回答を引き出した。

現時点までに示された回答は、ここ数年の賃上げと労働条件の維持・向上の流れを維持するものであり、コロナの影響で状況に幅がある中でも、これまでの組合員の努力に最大限報いるとともに、日本経済・社会の将来を見据えた労使の責任を重く受け止めた結果であると認識する。

〈文中 一部省略〉 とコメントを発信した。

▼ 2021.3.19付 岩手日報記事から ▲

	賃上げ	年間一時金
トヨタ自動車	平均 9,200 円	ベア含むか示さず 6.0 カ月分
スバル	ベア見送り	定昇のみ 5.2 カ月分
三菱電機	ベア 1,000 円	5.7 カ月分
東芝	ベア 1,000 円	業績連動

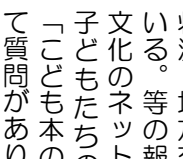
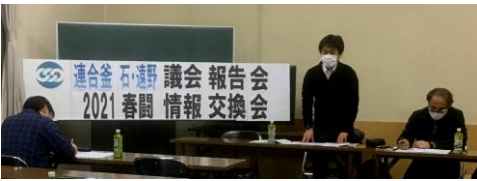


【菊池秀明 議員】
東日本大震災で受けた被害の復興状況、災害公営住宅の家賃問題について報告を受けた災害公営住宅一三一六戸が完

議会活動報告会

連合推薦市議会議員から、地域討論集会時に釜石市議会、二月二日の情報交換会時に遠野市議会の報告を受けた。

上が所得している、▽窓口業務の今年度登用者は0、▽期末・勤勉手当が据置、諸休暇の有給化を求めている、▽勤務管理は教育事務所ごとに違いPCやタイムカード、▽人事院勧告は八月頃に示される、▽年間五日以上の休暇取得は総務課から指導、▽六〇歳から働き方を変えて再雇用、同一労働同一賃金・福利厚生などに差があり格差是正の対応、▽人材不足で長時間労働、欠員補充を求めている、▽コロナ対策で手作業が多い、ヘルパーが来ているが間に合わない、▽デジタル教科書などの使い方が制約され、使い勝手が悪い、▽会計年度職員の見直し、▽屋間の照度計測が基準で照明が暗く、コロナ対策の換気で寒く、▽コロナで人の流れが止まって一時帰休、暇になっている、今年度は厳しい。等



【小松正真 議員】
市議会の資料は、当日に配付されるので対応に苦慮している。遠野市の財政状況と使われ方、公共事業などの進捗状況、地方交付税などの削減がもたらしている。沿岸被災地との文化のネットワークを作る拠点でもあり、子どもたちの夢と希望に向かう本施設「こども本の森 遠野」の運営などについて質問があり意見交換をした。



【三浦一泰 議員】
雇用関係と政策制度について報告を受け、有効求人倍率は倍弱、この状況は、今後とも続くと考えられる。雇用主と求職者のミスマッチを防ぐ、企業には人を呼び込む手立てを相談する「しごとくらしサポートセンター」をイオンタウン釜石に開設した。三陸道路と港湾を有効に使用して物を動かし、働きやすい・元気な街へとつなげたい。コロナ禍で集まるのが困難、皆さんの話を聞き、意見集約から自治体の政策制度の改善につなげていく。等

成し、被災者はすべて入居済、被災地の整備も完了した。仮設住宅は三月末までに解体が完了予定。上平田水門工事や道路の高上げ工事等はまだ時間がかかる。釜石市と水産会社などが協働でサクラマスの養殖試験を始めた、管理養殖は久慈・宮古・大槌に続き四番目となる。災害公営住宅の家賃は、世帯収入が増えると増額される。所得と並行して家賃が上昇することから若い方が退去、老夫婦しか住んでいない状況である。この現象は全国的な問題である。等

東日本大震災から10年 労働組合が今思うことは

連合本部は、被災直後から、組合員やその家族の安否確認、被災状況の把握、物資の確保に奔走し、被災地域全体の早期復旧に向けて全力を尽くした被災地の労働組合からのメッセージを掲載した。元地協議長・大和田さんの寄稿を紹介いたします。

忘れないで、一番大切な命



大和田 理
JP 労働組合 岩手南アス支部 支部長

あの震災で、当時の支部長が犠牲になった。つらく悲しい経験をしたが、その後の救援・復旧活動を通じて、労組は一回り大きくなり団結も強まった。職場の危機管理体制も整備された。日常生活がいきなり大切であるか、家族・仲間地域のつながりがいかに大切であるかを強く感じる日々だった。

あれから10年…。見た目の傷は修復されたが、人々の心には様々な傷が残っている。最近「震災の教訓が生かされていない」という声も聞こえてくる。悲劇を繰り返さないために、私たちに命の大切さと災害への備えを訴え続けていく使命がある。「忘れないで下さい、多くの尊い命が奪われたことを」「忘れないで下さい、一番大切な命だということを」